

平成24年6月27日

高山信用金庫  
理事長 細尾 晃

## 平成23年度（第86期）決算について

平素は当金庫に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成24年6月26日に開催しました第86期通常総代会におきまして、平成23年度決算が承認されましたので、その概要につきまして下記のとおりお知らせを致します。

### 記

平成23年度（第86期）の決算は、震災及び欧州金融危機による市場の悪化を受けて、特に有価証券の時価が下落したことによる減損処理を厳格に行ったこと、また、「中小企業等金融円滑化法」に積極的に対応するなか、飛騨地区における景況感の上昇に転じたとは言いがたい状況が続いており、取引先企業の業績不振等により貸倒引当金の大幅な積み増しを実施いたしました。その結果、誠に不本意ではありますが、当期純損失29億73百万円を計上する厳しい決算となりました。

当決算は、このような特殊要因が重なったことによるものであり、金融機関の本業収益を示すコア業務純益は、前期比5百万円増の635百万円となり、本業での収益を確実に確保しています。また、自己資本比率についても、今回の決算により11.66%から9.34%と2.32%低下しましたが、国内基準適用金融機関の健全性の目安である4%の2倍以上を確保しております。また、第三者の権威ある格付け機関である日本格付研究所より本決算の内容を踏まえ「BBB-」（安定的）の評価を得ており、金融機関としての健全性に問題ないものと考えております。

平成24年度は、地域密着型金融の本質を踏まえた営業活動の徹底を行い、取引先に対するコンサルティング機能を十分発揮することにより、コア業務純益7億12百万円、当期純利益1億41百万円を見込んでおります。

なお、経営基盤の強化および強固な営業基盤を構築するため、「リスク統括部」を

新設し、従来の「総合企画部」を「経営戦略部」と「営業統括部」に分割する組織改編を実施し、平成 24 年度の計画を更に実効性あるものと致します。

今後も地域金融機関として、地域社会との信頼関係を一層深め、持続的発展可能な地域社会づくりに積極的に貢献してまいりたいと存じますので、何卒ご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

以上